

インドにおける持続可能な開発のための伝統的農業：SATOYAMAのアプローチ

活動地域  インド



チェング祭において伝統衣装の歌と踊り

課題

焼畑をはじめとする伝統的土地利用には、北東インドで育まれた知的財産が詰まっているが、誤った固定観念と農村からの人口流出による消滅・劣化が懸念される。

目標

伝統的な農業が、生物多様性の保全や持続可能な開発を達成する手段としての役割を果たせるよう、伝統的な農業に対する正しい知識が広がる。



今後の
展望

プロジェクト関係者と日本にて伝統的農業のワークショップを開催し知識交流を行った上で、学術論文集を完成させる。タイ・カレン族の焼畑を視察し、土地利用の文化・伝統の継承について知識交流を行う。

ひろげる助成

1年目

調査研究

活動内容と成果

- ①北東インドの焼畑に関する学術論文集を編纂するため、インド国内外の専門家9人(+スタッフ2人)からなる編纂委員会を組織し、論文アブストラクトを募集。投稿24件、17件をアクセプト。14編の初稿が寄せられた
- ②焼畑に関する意識啓発と知見集積を目的に、チェング祭(参加者約250人)、先進地視察(13人)、インドSATOYAMAワークショップ(15人)を開催した
- ③パリパラ財団主催のEHNFフォーラムにてセッションを運営し、伝統的農業の重要性を発信



ハンノキを活用した焼畑の先進地を視察

焼畑に関する学術論文集編纂論文数 **14編**

主催イベント参加者数(延べ数) **280人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **33%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス禍の移動制限により現地での活動が実行できず、海外先進地視察も延期になり、現地関係者の関心の低下が懸念された。

■工夫した点

文化的に重要なチェング祭と活動を組み合わせ協力関係を実証。近隣地域で先進的活動を見つけて視察を実施し、知識交流を確保。

Darbari Seth Block, IHC
Complex, Lodhi Road, New
Delhi, India
電話：+91-11-24682100
E-mail：siddharth.edake@teri.res.in
HP：https://www.teriin.org/

